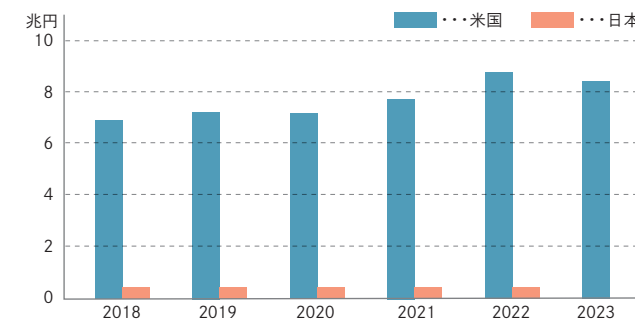


安定した学部運営のために

寄付金収入における日本と米国の比較

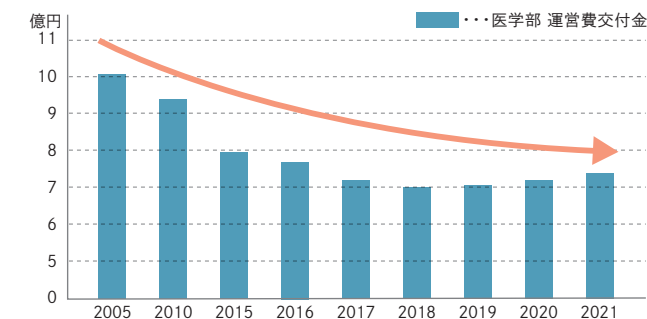
下図は寄付金収入額を米国と日本で比較したのですが、その差は歴然。米大学757校を対象にした調査では寄付総額は580億ドル(約8兆5000億円)に上り、日本の国公立と私立を合わせた額は約2400億円。その差は35倍以上です。日本でも寄付金が増えるよう周知や税制改正の要望に取り組んでいますが、ほぼ横ばいで推移している状況です。



(注) 1ドル=145円で換算。年度は米国が6月期、日本のデータは2022年まで。
(出所) 米CASE、文科省

阪大医学部の未来と運営費交付金

医学という学問の特性上、学部の運営には多額の経費が欠かせません。しかし、学部の運営に不可欠な国からの運営交付金は、2004年の法人化以来減少の一途を辿っており、非常に苦しい状況です。本学のさらなる教育・研究の発展のため、皆さまのご協力とご支援をお願いいたします。



※2021年時点でのデータです。

未来基金 医学系研究科・医学部教育研究事業に ご寄付いただいた皆さまへ

ご寄付いただくと税制上の優遇措置を受けられるほか、本学よりささやかながら感謝の気持ちを示させていただきます。

■感謝状の贈呈

2万円以上のご寄付をいただいた皆さまに感謝の心を込めて、大阪大学総長から感謝状を贈呈します。

■ご芳名掲載

「大阪大学未来基金」webサイト内の「芳名帳」にご寄付いただいた皆さまのご芳名を掲載します。
※公表を希望しない方については掲載いたしません。

■「大阪大学感謝の集い」ご招待

一定期間・一定額以上のご寄付をいただいた皆さまを、大阪大学総長が主宰する「大阪大学感謝の集い」にご招待させていただきます。

■顕彰プレート

累計50万円以上のご寄付をいただいた皆さまには、ご芳名をプレートに記し、大阪大学中之島センター及び大阪大学会館に掲示させていただきます。



5,000万円以上…プラチナ
3,000万以上★★★
1,000万以上★★
500万以上★…ゴールド
100万円以上…シルバー
50万円以上…ブロンズ

■税制上の優遇措置

大阪大学へのご寄付につきましては、確定申告を行うことにより、税制上の優遇措置が適用されます。別途お送りする「寄付金領収書」を添えて、所轄税務署に確定申告してください。
※住民税の軽減適用地域等、詳しくはwebサイトよりご確認ください。

個人の皆さま ☒ 所得税の軽減 ☒ 住民税の軽減

法人の皆さま ☒ 法人税法第37条第3項第2号により、寄付金の全額を損金算入することができます。

未来基金へのご寄付方法

ご寄付についてはクレジットカード、銀行振込、コンビニ払いがご利用いただけます。
詳しくはwebサイトより、お申込み方法をご確認ください。

詳しくはこちらから！

大阪大学 未来基金 検索
<https://www.miraikin.osaka-u.ac.jp>



寄付金に関するお問合せ

06-6879-8327

大阪大学 未来基金事務局
Email/kikin@office.osaka-u.ac.jp

広報誌に関するお問合せ

06-6879-5111

大阪大学 大学院医学系研究科・医学部広報室
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2
医学部HP: <https://www.med.osaka-u.ac.jp/>



Handai Mirai Connect

大阪大学医学部 ミライ・コネクト
寄付のお願い



大阪大学大学院医学系研究科・医学部
Graduate School of Medicine/ Faculty of Medicine, Osaka University

研究と臨床に通じた医師を育てるために

基礎研究の成果を臨床現場に繋ぎ、
医学の未来を切り拓く人材を育てることが阪大医学部の使命。
学生が最前線の基礎・臨床研究に触れる機会を、私たちは提供しています。

医学研究最前線

治療技術に課題が残る肺癌と肺移植。
阪大や海外の先端研究に触れてもらい、
新領域を切り拓く外科医を育てたい。

呼吸器外科学 教授 新谷 康

日本の癌患者のうち、死亡者数が年間約7万人と最も多いのが肺癌です。早期癌は手術で治療できるのですが、進行癌に対する治療法が十分に解明されていないためです。阪大の呼吸器外科学では進行癌の新たな治療法として、癌の悪化に影響を与えている周辺細胞や組織にアプローチ。癌治療に応用可能な免疫細胞の誘導に関する研究を



行っています。

また臨床では肺移植の高い実績を誇るのが阪大です。肺癌と肺移植の2領域に対応できる呼吸器外科医を育てるのが私の役割であり、さらに研究と臨床の両方に通じた外科医を育てることが阪大の使命です。学生には手術が上手なだけの医師になって欲しくはありません。基礎研究や臨床研究に触れ、最新の知見や治療技術を臨床現場に反映できる人材に成長して欲しいと考えています。

現在私の教室には、肺移植に関心を持ち臨床実習に取り組む学部生がいます。彼は肺移植に実績のある海外病院の見学を希望



しており、我々教官も嬉しい思いで研修先を紹介しました。保護者さまや一般の方々からの寄付は、彼のように海外で知見を深めたいという学部生の援助にもつながります。優秀な外科医の育成にご協力をお願いいたします。

阪大医学生インタビュー

医学の最先端に接して、奨学金を活用した研究や留学を志す

研究者育成コースに参加し
治療法を研究する臨床医へ

医学部医学科 1年生 渡邊 美怜さん



将来は臨床医として患者さんと向き合いながら、現場のニーズに応える治療法を考える研究にも取り組みたいと考えています。免疫制御学と内分泌・代謝内科学の両方に興味があり、いずれの道に進んでも、新しい治療法の開発に貢献できる医師となるのが夢です。阪大の研究者を育てるコースにも興味があり、参加している友人から勉強会の内容を聞いては意欲を高めています。

生体細胞を用いた臓器生成
などの再生医療を学びたい

医学部医学科 1年生 鈴木 悠矢さん



1年生の現在は一般教養が中心ですが、「医学序説」という阪大医学部の素晴らしい先生方から直に専門領域の最新情報を聞く授業もあり、饗沢だなあと感じながら受講しています。現在私が興味を持っているのは、器官システム創生学と言う再生医療の領域です。こうした新たな医学を学ぶためにも、積極的に学生が利用しやすい留学支援制度を設けていただけると嬉しく思います。

Topics

武部 貴則教授が、 「イグノーベル賞」を受賞！

哺乳類にはお尻から呼吸する能力がある

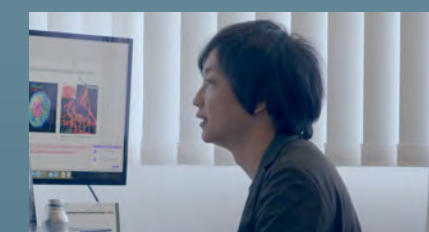
「ブタなどの動物にお尻から呼吸する能力があることを発見した」として、イグノーベル賞生理学賞を受賞しました。日本ではノーベル賞のパロディというイメージが強いのですが、イグノーベル賞本来の理念は、笑いを入り口に一般

の人に新しい研究の意義や将来性を考えさせること。受賞の対象になったのも、肺呼吸ができない人のための再生医療からスタートした研究でしたので、選んでいただいたことに改めて喜びを感じています。



医学系研究科器官システム創生学
武部 貴則 教授

腸呼吸で肺呼吸を補完する方法を発見



私の専門は再生医療で、主に肝臓を対象にiPS細胞を使った臓器づくりを研究しています。この私の研究室に「肺をつくりたい」と考える院生が現れました。しかし肺の再生医療は難しく、別の方法を探るなかで、腸を使って呼吸できる

ドジョウに着目したことが、イグノーベルにも繋がる研究の端緒となりました。その後マウスで実験を重ね、哺乳類もお尻…つまりは腸から呼吸できるという発見に至り、現在は人間での治験も進んでいます。

自由な研究環境が、医療の未来を切り拓く

この研究は呼吸に関わるためCOVID-19を機に重要性が認められ、資金支援を受けられる研究事業対象となりました。これは誠にありがたいことですが、真に新しい医療を切り拓くには、用途や目的に縛られない自由度の高い研究予

算が必要です。一般の方からの寄付は、私たちが非常に大きな挑戦や本質的な課題解決に向けた研究をするための大きな支援となります。より社会を良くするためにも、寄付の文化が広がることを願っています。

武部教授インタビュー動画はこちらから ▶



ご挨拶と寄付のお願い 医学系研究科長・医学部長 石井 優

大阪大学医学部では、学生の個性や可能性を伸ばす教育を推進するために、全学生が基礎医学研究に触れられる独自のシステムを導入し、研究への関心を育む環境を整えています。また、国際社会で活躍できる医療人を育成するため、留学支援にも注力しています。これらの取り組みによって大阪大学医学部から次世代の医学・医療をリードする人材の育成を目指しています。本学への寄付金は、教育環境の充実やプログラムの強化に活用させていただいております。人類の未来を担う医学生たちのため、皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

